

パールビーズの森プロジェクト 学生チーム MG パール

インドネシア・ボルネオ島では、アブラヤシのプランテーションの急激な増加により森林が失われ、オランウータンやボルネオゾウなどの野生動物たちは棲家を失い絶滅の危機に瀕している。しかし、アブラヤシから採れるパームオイルは私たちがよく口にするインスタント麺・ポテトチップス・アイスクリーム・冷凍食品などに使われている。7月、学内で行われたボルネオ保全トラストジャパン（以下 BCT）によるボランティア説明会で初めてこの事実を知った私たちは、BCT が進める『オランウータンに森をプレゼントする』というプロジェクトに賛同し、MG パールという学生チームを立ち上げ、ボランティアセンター、BCT との三者協働プロジェクトが始動した。具体的には、ボルネオで採れる淡水パールを使って、携帯ストラップやアクセサリを自分たちでデザイン・製作し、それを販売した収益金でボルネオに野生動物たちのための森を購入することを目指した。私たちはまず、知識がなかったため、DVD を見たり、BCT の方から野生動物の現状について伺ったり、アクセサリ製作の技術習得を目的とした講習会を7月30日に企画した。ボルネオ産のパールは1つ1つ粒の大きさも穴の大きさも違い、世界に1つだけの商品ができるが、デザインを考えるのに苦労した。8月には多摩動物公園を訪問し、実際にオランウータンを見学した。私たちと同じ様に餌を食べたり、手袋をはめたり、雑誌を読む姿を見て、人間の都合で彼らを絶滅へ追いやっていると思うと、心が苦しかった。「何かできることをしたい」と改めて思った。そして実際にアクセサリを販売するため、11月から毎週木曜日ボランティアセンターでアクセサリ講習会を始めた。1つの商品を作るのに予想以上の時間がかかり、どの程度の数が作れるか心配だったが、スタッフの頑張りと、学内ポータルサイトでの広報や口コミで集まった多くの学生が参加してくれ、十分な数の商品を用意することができた。私たちの思いがこもった世界に1つしかないアクセサリが作れたと思う。こうして12月14日（日）、本プロジェクトの大イベントとして『ジャングルクリスマスフェスタ in 白金』を白金校舎で開催した。ボルネオの現状とプロジェクトの周知、パールアクセサリの販売を目的とした本イベントでは、賛同した多くの学生たちがボランティアとして集まり、運営に協力してくれた。ステージでは、アナウンス研究会の学生による司会で、学内サークル及び学生有志らが民族舞踊や音楽を披露し、来場してくれたお客様たちへのクリスマスプレゼントとして花を添えた。このように多くの学生が関わってくれたおかげで、イベントは大成功に終わった。一番苦労したのは広報活動だったが、近隣の小学校、児童館、地域の方々の協力のおかげで悪天候の中、多くの来場者があり、募金・アクセサリによる売り上げ目標額も達成することができた。以上から、私たちは地域・大学・学生の可能性を感じる事ができた。そこで、来年度はその可能性をさらに具現化したい。具体的には、「白金」という恵まれた地域資源を活かし、近隣の小学生たちとの多摩動物園訪問や商品製作、シロカネストリートフェスタ(本書28ページ参照)への出店といった協働を計画している。本学のシンボルマークである MG。私たちは「MGらしい活動」を目指して、今後も地域とのつながりを大切にしながら、世界の環境問題に取り組んでいきたい。

(心理学部心理学科2年須賀ゆきの・1年岩永春香)